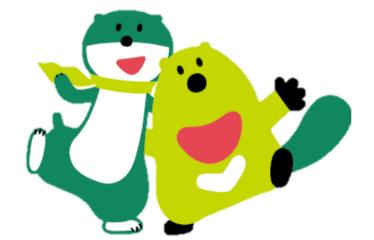
SMBCグループの経営戦略

2022年3月2日



証券コード	8316
単元株数	100株
株価*	4,114円

* 2022年2月25日現在



プレゼンター紹介



中島達(なかしまとおる)

取締役 執行役専務 グループCFO兼グループCSO

1986年 住友銀行入行

2011年 三井住友銀行 新横浜法人営業部長

2012年 同 投資銀行統括部証券戦略室長

2013年 同個人統括部長

2015年 三井住友フィナンシャルグループ企画部長

2019年 同 取締役 執行役専務

グループCFO兼グループCSO(現職)

キャラクター紹介

ミドすけ



- 三井住友銀行のキャラクター
- ひよんなことから人間の世界に住みついた、 緑色のカワウソ
- 特技は、10円玉を立てること

ビバすけ



- ▶ SMBCグループ共通のポイントである Vポイントを知ってもらいたくて、 日々はりきっているビーバー
- 趣味は、Vポイントを集めること

本日のアジェンダ

I	SMBCグループの特長・強み /////////// 5	株主還元の強化 ////////////////////////////////////
I	SMBCグループの成長戦略 ///////// 11	VI ご案内 //////////////////// 28
	サステナビリティへの取組 '///////////// 19	ご参考資料 /////////////////// 33
IV	業績 ///////// 23	

I. SMBCグループの特長・強み



1. 圧倒的なグループ総合力

各業界トップクラスの企業がSMBCグループを構成



三井住友銀行 (SMBC)



SMBC日興証券



三井住友カード



三井住友DS アセットマネジメント



SMBC信託銀行



三井住友ファイナンス&リース



SMBCコンシューマー ファイナンス



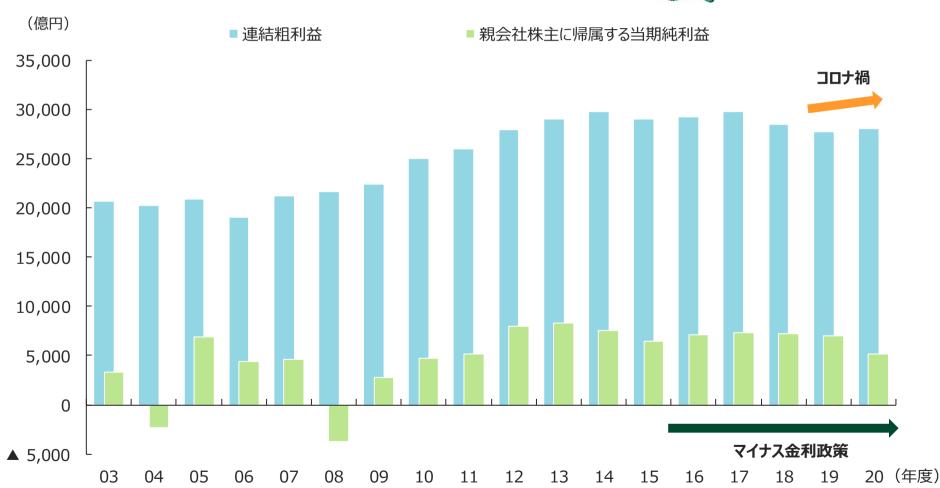
日本総合研究所



2. 安定した業績

マイナス金利政策やコロナ禍といった厳しい環境下でも、安定した収益を計上





3. 多様な収益源・効率性の高さ

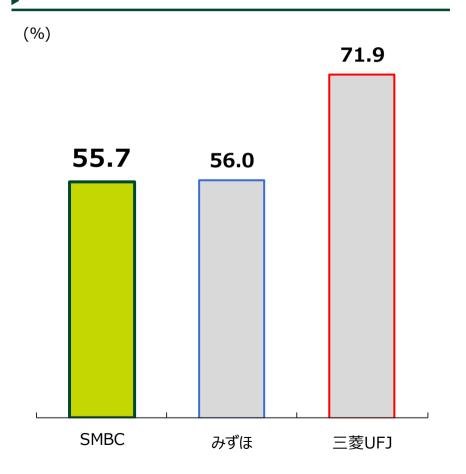
グループの総合力を活かし、収益源の多様化に努めつつ、高い効率性を維持



連結粗利益の内訳

2002 2020 年度 年度 SMBC以外の 38% 18% グループ会社 海外ビジネス 23% **5**% (SMBC) 国内貸出金• **15**% 預金関連収益 35% (SMBC)

経費率*1



^{*1 21}年度3Q実績(単体)。営業経費(邦銀は傘下銀行の臨時処理分を含む)をトップライン収益(保険契約に基づく保険金及び給付金純額を除く)で除したもの。

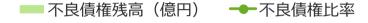
4. 質の高い資産・健全な資本基盤

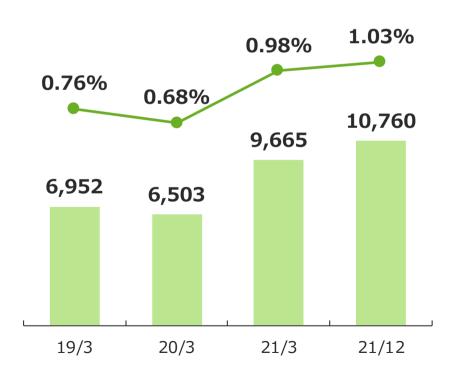
低水準の不良債権比率、十分な自己資本を維持

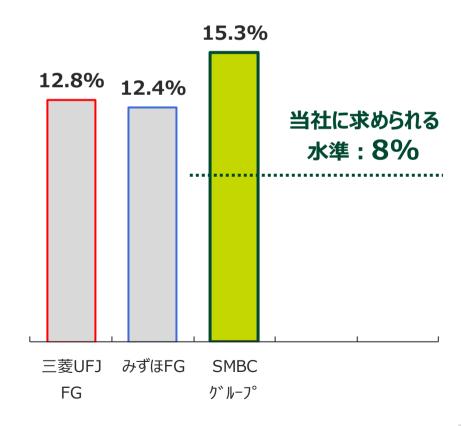


不良債権残高·比率

普通株式等Tier1比率(現行基準)*:





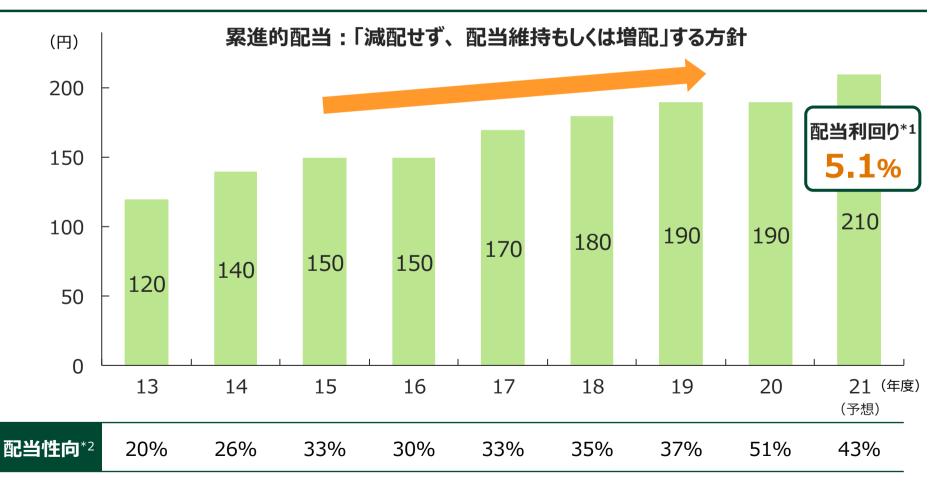


5. 累進的に配当を増加

コロナ影響下においても 2020年度:据置 2021年度:増配を実現



1株当たり配当



II. SMBCグループの成長戦略



1. 私たちを取り巻く環境

金融業界は厳しい業務環境に直面



地政学リスクの高まり







気候変動への 対応 就業観の変化・ 働き方改革 新型コロナウイルス 感染症

ビジネスモデルも絶えざる進化が必要

2. 私たちの目指す姿

中長期ビジョン

最高の信頼を通じて、お客さま・社会とともに発展する グローバルソリューションプロバイダー

3つの方向性

情報産業化

プラットフォーマー 3 ソリューションプロバイダー

中期経営計画

基本方針

事業戦略

Transformation

既存ビジネスのモデル改革

Growth

新たなビジネス領域への挑戦

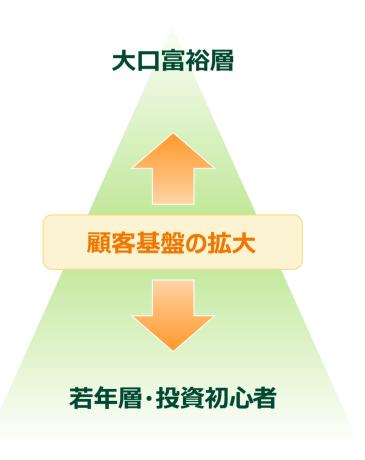
経営基盤

Quality

あらゆる面での質の向上

3. 既存ビジネスの拡大 ①資産運用ビジネス

グループの総合力や外部との提携を活かし、顧客基盤を拡大







3. 既存ビジネスの拡大 ②法人貸出

お客さまの多様な資金需要に応え、貸出残高は増加トレンドを維持



海外貸出

● 利率の高い、高採算の貸出に注力





プロジェクトファイナンス サブスクリプションファイナンス

国内貸出

新たなニーズへの対応







事業再編

デジタル化

サステナビリティ

4. デジタル技術の活用 ①個人のお客さま向けサービス

デジタル技術を活用し、当社との取引を便利でお得、安全にご利用いただくことを目指す

スマホアプリ

三井住友銀行アプリ

メガ初

- オンライン24時間365日化
- Web完結の手続拡大





キャッシュレス決済

番号非表示のナンバーレスカード



カード番号はアプリで管理



Vポイントアプリ



貯めたポイントを お買い物等に活用











決済端末の提供

stera

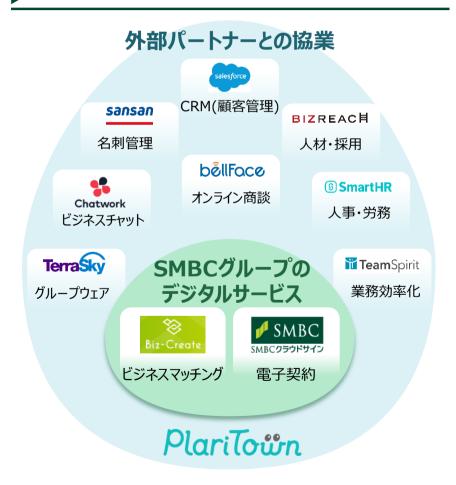
GMOペイメント・ゲートウェイ社、 VISA社と連携



4. デジタル技術の活用 ②法人のお客さま向けサービス

デジタル技術を使った非金融ビジネスを強化し、多様化するニーズに対応

法人向けデジタルプラットフォーム



気候変動対応ツール

温室効果ガス排出量可視化ツール





広告ビジネス

SMBCデジタルマーケティング



金融データ による ニーズ分析



配信先 決定

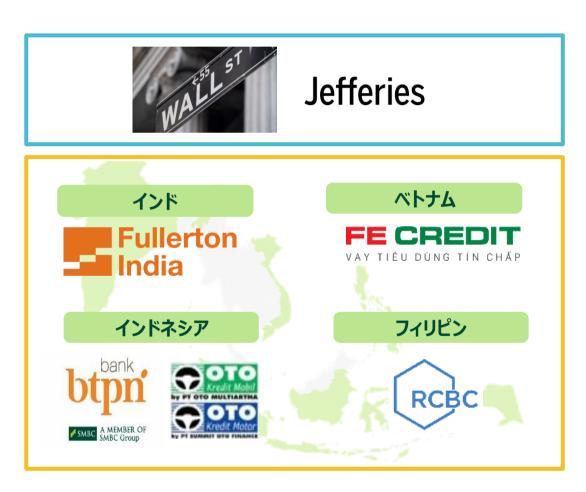


5. 新たな事業基盤の獲得

アジアのマルチフランチャイズ戦略推進と海外証券・航空機リースビジネス強化に向けてシナジーを追求

ターゲット





皿. サステナビリティへの取組



1. 経営体制の確立

2018/10

2020/4

2021/4

サステナビリティ 推進委員会設置

委員長: グループCEO 委員: グループ各社トップ

経営理念改定

お客さま

株主

従業員

社会

サステナビリティ 宣言策定

SMBC Group "GREENxGLOBE 2030"

〜お客さまとともに、 人と地球の未来を創る〜 グループCSuO 設置



サステナビリティ 委員会設置



グループCSuO (チーフ・サステナビリティ・オフィサー)

> 気候変動問題を含む サステナビリティ全般の 取組を統括・推進

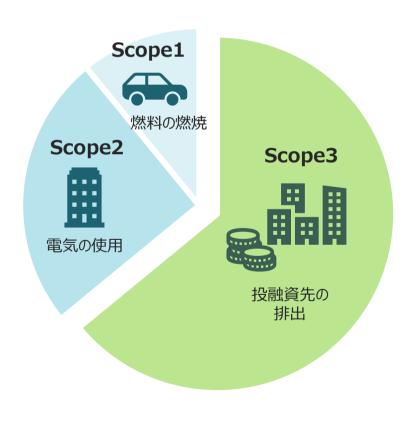
サステナビリティ委員会

- 取締役会の 内部委員会として新設
- 社外取締役が 委員長に就任

2. 温室効果ガス排出削減

2030年までに自社の排出する温室効果ガス排出量(Scope1,2)、 2050年までに投融資先の排出する温室効果ガス排出量(Scope3)の実質ゼロを実現

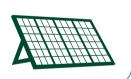
金融機関における温室効果ガス排出とは



温室効果ガス排出量削減目標



- 営業車のEV車への切り替え
- オフィスの使用電力を 再エネにより調達



石炭火力発電所向け融資方針

石炭火力発電所の新設および拡張案件への支援は行いません。

3. 金融機関が担う役割

お客さまのサポート

地球規模の気候変動問題 (気候変動による災害、食料問題、難民問題)

脱炭素へのプレッシャー

SMBCグループの投融資先

脱炭素を 実現した企業



企業価値向上

脱炭素化 できない企業



企業価値下落

SMBCグループ



🔪 お客さまの脱炭素への移行を支援 🥖



- コンサルティングファイナンス
- リスクの計測
- 情報提供

GREEN×GLOBE Partners

環境・社会課題解決の「意識」と「機会」を流通させる

サステナブルファイナンス

2030年目標

サステナブルファイナンス 30兆円 グリーンファイナンス 20%円

20-21年度上期

4.6%円

プロジェクトファイナンスの業界誌(PFI誌)から、 2020年の再エネ案件の取組み等が評価され、 6度目の『PF Global Bank of the Year』 を受賞



Ⅳ. 業績



2021年度第3四半期実績

通期業績目標比、連結業務純益81%・親会社株主純利益93%の進捗

		(億円)	21年度 1-3Q	前年 同期比	21年度 目標
1	連結粗利益		21,821	+1,117	
2	営業経費		▲ 13,305	▲ 511	
_	(経費率)		61.0%	△0.8%	
3	持分法投資損益	進捗	率 541	+345	
4	連結業務純益	819	9,056	+950	11,200
5	与信関係費用		▲ 1,577	△771	▲ 2,000
6	株式等損益		1,347	+620	
7	その他		▲ 153	+384	
8	経常利益		8,674	+2,725	9,800
9	特別損益		▲ 52	+26	
10	税コスト		▲ 2,324	▲807	
11	親会社株主純利益	£ 93%	6,248	+1,909	6,700
12	ROE		8.6%	+2.5%	

連結粗利益 国内外の企業活動の回復・活発化等を

通じて増益

営業経費 昨年度のコロナ影響の反動や

三井住友カードの新規顧客獲得好調に

伴い増加

持分法投資損益 航空機リースビジネスや

アジア出資先の業績回復により増益

与信関係費用 昨年度の引当計上先からの戻りを主因に

減少

ただし、大口先への引当計上により、

上期対比では増加

V. 株主還元の強化



1. 資本政策の基本方針

株主還元

配当を基本に、機動的な自己株取得も実施

- 累進的配当: 「減配せず、配当維持もしくは増配」
- 22年度までに配当性向40%

持続的な 株主価値の向上

ROCET1目標 8.5%以上

健全性

CET1比率目標:10%程度

成長投資

投資規準

- 戦略に合致
- シナジー後ROCET1で 8.5%以上を展望可能
- リスクがマネジャブル

2. 2021年度の株主還元策

2021年11月、配当予想を210円に引き上げ、総額1,000億円を上限とする自己株取得を決議





• 前年比: +20

• 予想比: +10

自己株取得 決議



累進的配当



機動的な自己株取得



VI. ご案内



当社のウェブサイト

当社ウェブサイトに、個人投資家の皆さまに向けたコンテンツを掲載



ウェブコンテンツ

Beyond SMBC Group

SMBCグループ各社の取組を動画も 活用しながら、分かりやすくご紹介 しています。





SMBCグループ二十年史

2011~2020年度のSMBCグループ の歩みを記した社史です。





SMBCグループの広告









最後に:SMBCグループの魅力





1. 資本の健全性の高さ





2. 成長力の高さ



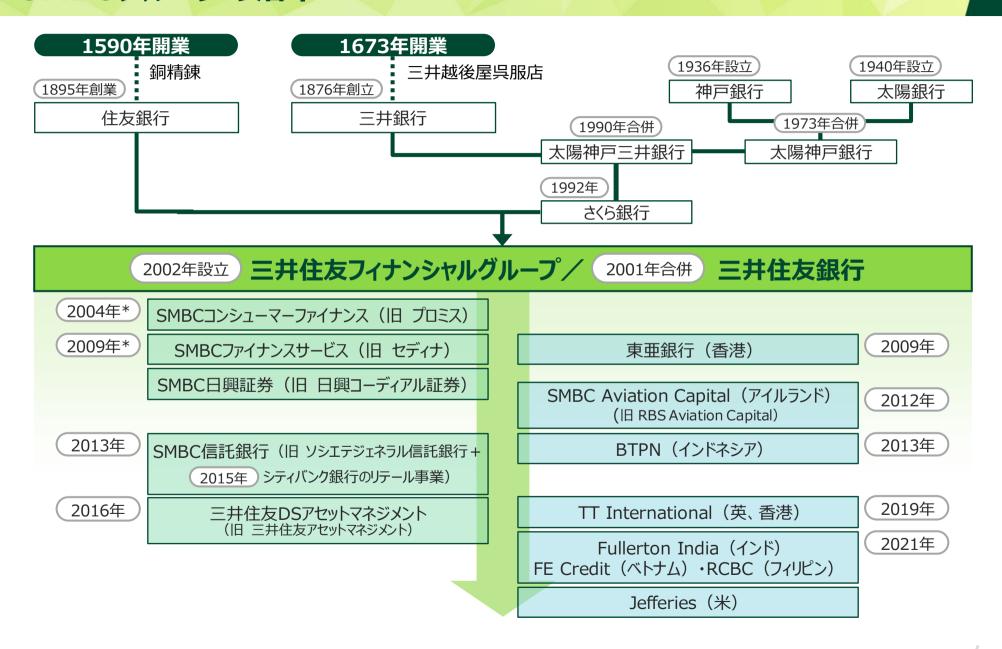


3. 配当利回りの高さ

ご参考資料



SMBCグループの沿革



決算の概要

連結P/L

(億円)	21年度 1-3Q	前年 同期比	21年度 目標
連結粗利益	21,821	+1,117	
営業経費	▲ 13,305	▲ 511	
持分法投資損益	541	+345	
連結業務純益	9,056	+950	11,200
与信関係費用	▲ 1,577	△771	▲ 2,000
株式等損益	1,347	+620	
その他	▲153	+384	
経常利益	8,674	+2,725	9,800
親会社株主純利益	6,248	+1,909	6,700

■主要グループ会社

(億円)	SMBC		SMBC日興 ^{*1}		SMCC	
業務粗利益	11,312	+558	3,104	▲ 90	3,044	+133
経費	▲ 6,298	▲243	▲ 2,389	▲82	▲ 2,504	▲ 188
業務純益	5,014	+315	715	▲ 172	539	▲ 60
当期純利益	3,445	+1,169	513	▲201	246	▲ 68

	SMBCCF		SMBC信託		三井住友D	S 50%
業務粗利益	1,923	▲ 41	344	+61	287	+42
経費	▲869	▲ 70	▲335	▲ 3	▲223	△17
業務純益	1,054	▲ 112	9	+58	64	+59
当期純利益	538	▲ 160	1	+72	39	+44

(持分法適用)

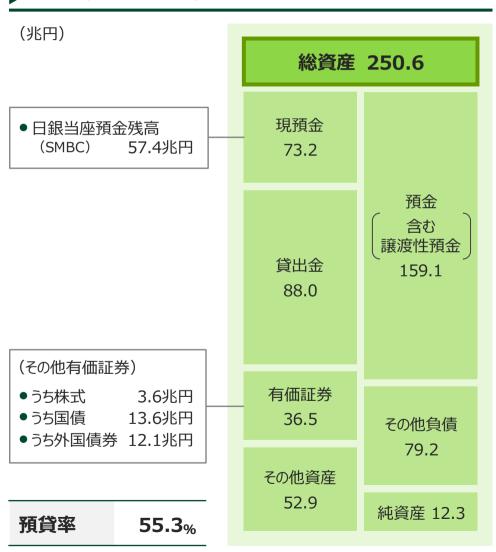
	SMFL*2	50%
業務粗利益	1,621	+367
経費	▲ 747	▲133
業務純益	932	+262
当期純利益	569	+332

(左:21年度1-3Q実績、右:前年同期比)

^{*1} SMBC日興の海外持分法適用関連会社(SMFGの連結子会社)の利益を含む内部管理ベース *2 内部管理ベース

バランスシート・1株あたり情報

|連結B/S(2021/12月末)



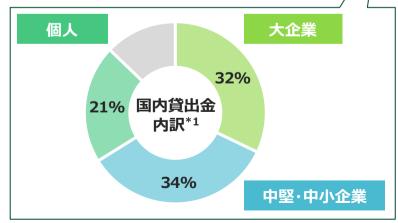
1株あたり情報

	20年度 実績	前年比	21年度 予想
当期純利益	374.26円	▲137.61円	488.76円
配当	190円	± 0円	210円
	21/3月末	20/3月末比	
純資産	8,629.73円	+802.23円	

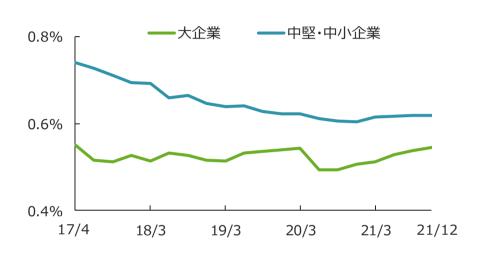
貸出金

貸出金残高(SMBC単体)





■内法人向け貸出金スプレッド (SMBC単体) *1,2



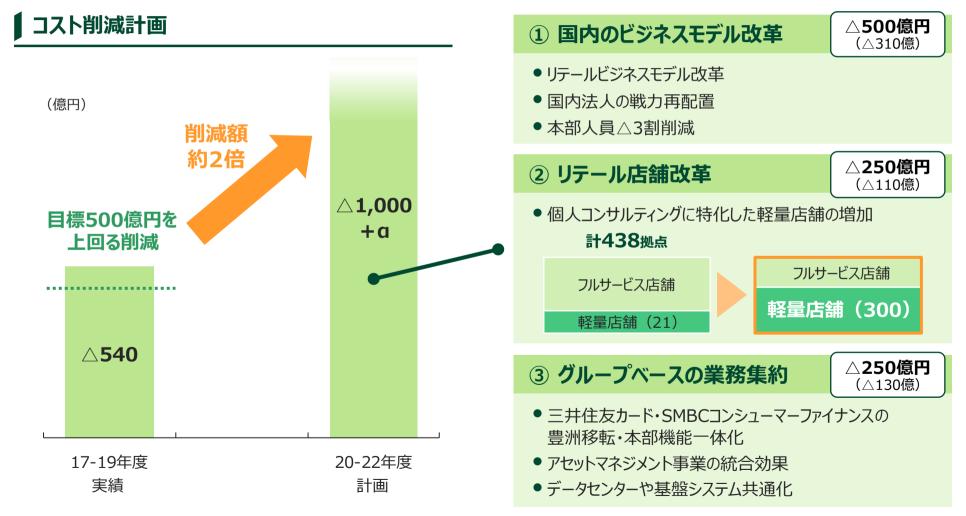
海外貸出金スプレッド*1,3



コスト削減への取組

中期経営計画(20-22年度)の3年間で、1,000億円+aのコスト削減を目指す

(上段:目標、下段:21年度上期実績)

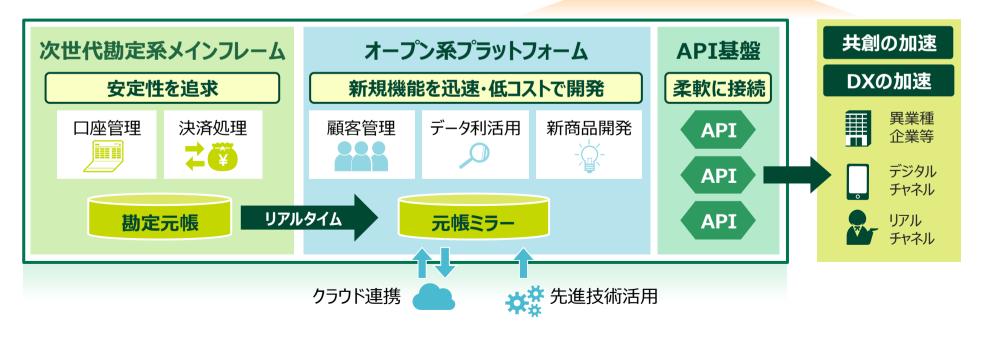


次世代勘定系システムの開発

デジタルトランスフォーメーション(DX)を支える次世代勘定系システムの開発に着手

1994	2002	2021-25
4次オンライン化	システム統合	次世代勘定系システム 総投資:500億円
オンライン処理24時間化アプリケーション部品化	● 旧さくら・住友銀行の 勘定系システム統合	● オンラインサービスの完全無停止化● グローバル決済の即時化・時限延長● 全勘定系データのリアルタイム分析

勘定系の安定性を向上しつつ、環境変化に迅速・柔軟に対応可能なアーキテクチャへ刷新



新型コロナウイルスへの対応

With コロナの時代に対応したビジネスのあり方を追求

お客さま



● SMBCの国内全支店・ATMの営業を継続







オンラインを活用した営業活動 (ウェブ面談、電子契約など)





● Afterコロナを見据えた情報提供・ディスカッション

従業員



- テレワーク・スプリット運営の推進
- ワクチンの職域接種の実施
- 従業員個々の事情に応じた 特別休暇取得の推奨

地域·社会



医療、教育・福祉、文化芸術活動 を支援(寄付総額15億円)

外部からの評価

外部格付

	SMFG		SM	ВС	
	(長期)	(短期)	(長期)	(短期)	
Moody's	A1	P-1	A1	P-1	
S&P	Α-	_	Α	A-1	
Fitch	Α	F1	Α	F1	
格付投資情報センター (R&I)	A +	_	AA-	a-1+	
日本格付研究所 (JCR)	AA-	_	AA	J-1+	

ESGインデックスへの組入れ







2021 CONSTITUENT MSCI JAPAN ESG SELECT LEADERS INDEX



GPIF 選定インデックス ┛

| 外部評価









株価推移



✓ SMBC 三井住友フィナンシャルグループ



本資料には、当社グループの財政状態および経営成績に関する当社グループおよびグループ各社経営陣の見解、判断または現在の予想に基づく、「将来の業績に関する記述」が含まれております。多くの場合、この記述には、「予想」、「予想」、「期待」、「意図」、「計画」、「可能性」やこれらの類義語が含まれますが、この限りではありません。また、これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものであり、実際の業績は、本資料に含まれるもしくは、含まれるとみなされる「将来の業績に関する記述」で示されたものと異なる可能性があります。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性としては、以下のようなものがあります。国内外の経済金融環境の悪化、保有株式に係るリスク、不良債権残高および与信関係費用の増加、当社グループのビジネス戦略が奏功しないリスク、合弁事業・提携・出資・買収および経営統合が奏功しないリスク、海外における業務拡大が奏功しないリスクなどです。こうしたリスクおよび不確実性に照らし、本資料公表日現在における「将来の業績に関する記述」を過度に信頼すべきではありません。当社グループは、いかなる「将来の業績に関する記述」について、更新や改訂をする義務を負いません。当社グループの財政状態および経営成績や投資者の投資判断に重要な影響を及ぼす可能性がある事項については、本資料のほか、有価証券報告書等の本邦開示書類や、当社が米国証券取引委員会に提出したForm 20-F等の米国開示書類、当社グループが公表いたしました各種開示資料のうち、最新のものをご参照ください。